

鹿沼の自然・栃木の旅

月報第 3 号

(2012 年 7 月)



北光クラブ
自然観察クラブ

大町文衛著「日本昆虫記」（昭和16年・朝日新聞社刊）

同書より「6 光る虫」

動物の中には自ら光を放つ種類がいろいろ知られているが、これらは水中、否殆んど海中に住むもの許りである。日本には有名なホタルイカがある。（中略）しかし陸に住むもので光を放つものといったら昆虫だけしかないのである。自ら光を発して行動の助けとするというこの偉大な能力は、他の高等動物にもないのである。これも小さな昆虫の大きな自慢の一つであろう。（中略）

螢は成虫ばかり光るのではなく、一生を通じて光っている。まず卵は水辺の草の根本に産みつけられるが、この卵も光を放つ。それから孵った蛆のような幼虫も光りながら水中又は湿地の中にあつて段々生長をしてゆく。（中略）

螢の幼虫が巻貝を食べる方法は極めて巧妙で、まずその大顎をもって麻酔薬を注射して、無力にしておいてから、その肉を消化して吸うのである。かくて段々成長してくると土中に入って蛹となる。蛹となつても光っている。（中略）

…明るさは日本の螢で一燭光の100分の1にも足りないが、それは熱を伴わない最も経済的な光なのである。即ち人間の作る灯火はそのエネルギーの大部分が熱となって放散されてしまい、光となる有効な率は極めて僅かであるが、螢の光は殆んど総てが光となる不思議な光で、今は故人となられた神田左京という人などはその研究に一生を捧げられた位であるが、その原理はまだ完全に解っていない。大体、発光物質が酵素の作用によって酸化される時に発光すること位しか判っていないが、その腹端にある発光器の構造の微妙なことは驚くばかりで、発光層の前にはレンズに当る處あり後には反射層ありという風に、最小の光で最大の効果があるようになっている。

この発光の生態学的の意義についてはまだ確説がない。或は雌雄間の信号といわれるが、一生を通じて光る点が判らないのである。或は又警戒信号ともいわれるがその生態的意義よりも光の方が前にあつたのであろう。（後略）

奥日光ハイキング

中宮祠～茶ノ木平

6月10日（日） 天気・くもりのち雨

朝からあやしい天気でしたが、北光クラブ顧問の井上哲男氏、また久しぶりに参加された小川真司氏をはじめ、積極的な参加者ばかりで、予定通り中宮祠、レークサイドホテルの裏手にある登山口から出発。

ゴヨウツツジやトウゴクミツバツツジがちょうど満開で、白や紫の花が新緑の森を彩っています。せり科の小さな花とサトイモ科のマムシグサの仲間が現れ、初っ端から全員立ち止まって隊長の調べを待つ…イワセントウソウとユモトマムシグサとわかり、これだけでも大きな収穫でした。

茶ノ木平に登り着いた所は広い草原で、廃止になったロープウェイの山頂駅の跡であることがわかります。ここでは植物園の名残か、歩道沿いに何本かのアズマシャクナゲが赤い花を開いていました。

半月山スカイラインが合流したところで小雨模様となり、半月山は断念して、車道をゆるゆる下りながら中宮祠に戻りました。車道沿いにはカツラ（ヒロハカツラ？）の木が多く、珍しいオヒョウの木が見られたのも収穫ですね。イカル、キビタキ、コルリ、エゾムシクイなどのさえずり、そしてゴジュウカラが見られたのもラッキーでした。

中禅寺湖畔まで下り、佐々木茂氏の提案でイタリア大使館別荘記念公園へ。ちょうど雨が小止みの間に昼食をとり、ひと休み、クリンソウも咲いていました。その後、日光博物館を見学。運よく、県民の日を前に入館無料の日でした。

（北光クラブNEWS・No.116掲載）

※ 参加者

小川真司・知峻・裕月、佐々木茂・伸二、井上哲男、山口龍治、
小嶋美穂、石崎裕子・隆史、阿部良司・みゆき（計 12 名）

✿ 開花していた植物

くるみ科	サワグルミ	(つつじ科)	トウゴクミツバツツジ
かえで科	ミネカエデ		アズマシャクナゲ
	ウリハダカエデ	さくらそう科	クリンソウ
すみれ科	タチツボスミレ	すいかずら科	ウコンウツギ
せり科	イワセントウソウ	きく科	セイヨウタンポポ
つつじ科	ヤマツツジ	ゆり科	マイヅルソウ
	ゴヨウツツジ	さといも科	ユモトマムシグサ

✿ 出た虫

エゾハルゼミ、(ヤマ)キマダラヒカゲ、ヒメハサミツノカメムシ

✿ 出た鳥

ヒガラ	ウグイス	セグロセキレイ
コガラ	エゾムシクイ	イワツバメ
ヤマガラ	センダイムシクイ	
ゴジュウカラ	コルリ	
イカル	ミソサザイ	
キビタキ	コゲラ	



キマダラヒカゲ

✿ 見たキノコ

ヌメリツバタケモドキ、オオワライタケ、ウスヒラタケ

✿ 参加者からいただいたお手紙(一部省略)

残念ながら天気には恵まれませんでしたが、楽しい山行でした。

春せみの存在を初めて知り、またその声を聴くことができ、大変感動しました。山を登る時は下ばかり見る人が多いのですが、今回は上を見て木々を観察し、それも詳細な説明をしていただき大変勉強になりました。

また参加させていただきたいと思います。

(小川真司)

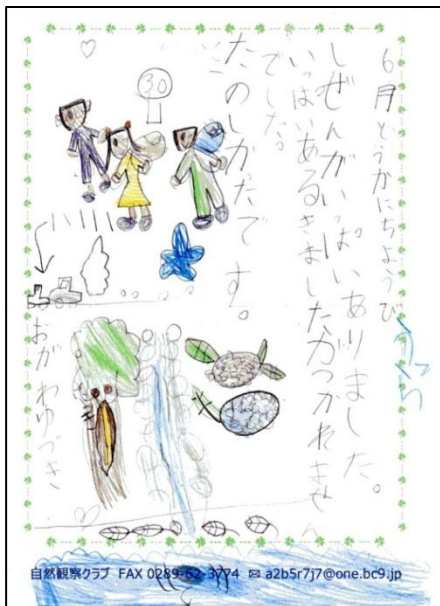
6月10日、茶ノ木平に登りました。自然観察クラブの皆さんと、行きました。

いちばんびっくりしたことは、木に巨大ななめじりがいたことと、春ゼミがいたことです。

そして、中禅寺湖でやった水きりが楽しかったです。いろいろな木を観察したことも楽しかったです。

(中略)突然雨が降ってきて、駐車場に行くまで遠回りしなきゃいけないのです。それまではよかったのですが、その道のりがすごく大変だったのです。そしてお父さんのリュックの中に望遠鏡をしまったのに、落としてしまったと勘違いしてしまったのです。このようなことで、泣いてしまいました。

(中略)でも楽しかったのでもた行こうと思います。(小川知峻・北小3年)



6月10日 日曜日

自然がいっぱいありました。いっぱい歩きましたが疲れませんでした。

楽しかったです。(小川裕月・北小1年)



アズマシャクナゲ



オヒョウの葉

奥日光ハイキングは、あいにくの雨天。共通した樹木や雨が多い奈良の大台ヶ原へ来たような感じの1日でした。今回は昆虫です。

登り始めて、あちこちにセミのぬけがらがありました。成虫も見られ、エゾハルゼミでした。お昼ごはんを食べた所に、茶色いチョウが飛んでいました。大きさからキマダラヒカゲでしょう。この蝶は、里型と山型があります。ここは標高が高いので山型(ヤマキマダラヒカゲ)だと思います。同じところに、お尻に2本の角があるカメムシを見ました。このときは名前が出てきませんでしたが、ヒメハサミツノカメムシです。ブナ林に棲み、ツタウルシやミズキ、ウコギの樹液を吸っています。よく似た種がいくつかいて、私たちが住んでいる所で見たら、それは別の種類です。(山口龍治)

水の生き物観察会

昨年9月、自然観察クラブの調査で、黒川におけるウナギの生息が確認されました。確認された場所は黒川の上流、カジカのたくさんすんでいる清流です。さて、戸張町・星宮神社の神様の乗り馬はウナギ。今でも戸張町には決してウナギを食べない、という方が多いと思います。事実、かつて戸張町、泉町の用水路にはウナギがいた、という話はお年寄りから聞くとこです。そして水草のバイカモのことを金魚草と呼ぶように、バイカモが身近な川に漂っていたことも事実。バイカモが水の湧き出す清流にしか生育できないのは明らかですが、北部地区各町内に弁財天があることを見ても、かつては市街地でも泉が湧いていたことがうかがえます。カジカのすむ清流でウナギが確認できたことは、戸張町や泉町を流れる用水路でも、かつては泉が湧き、バイカモが生え、黒川上流と同じ水質、環境であったことが想像できます。そしてそのような環境が失われたことが、ウナギが生息できなくなった理由と考えられます。

今回は泉の湧く川、バイカモの生える川、を中心に水の生き物観察会を行います。捕った生き物は終了後放流しますが、飼育観察する方は電池式のエアープンプを用意して下さい。

昆虫に詳しい山口龍治氏も参加される予定です。昆虫に興味のある皆さんもぜひお出かけ下さい。

日 時：7月8日（日）AM8：00 北小西門集合

持ち物：D型の網、バケツ、エアープンプ、長靴、各種図鑑、カメラ、虫めがね、
おやつ、水筒

その他各自必要に応じてお持ちください。

参加費：100円

問い合わせ：自然観察クラブ（090-1884-3774 阿部）

㊦ 会員からのお便り ㊧

※ 今月はありません。皆様の投稿をお待ちしています。

☞ その他の予告 ☜

北光クラブ・サマースクール（詳細別途）

8月 5日（日） 昆虫観察

8月19日（日） 黒川・魚釣り教室

生き物係の手帖・1

ウナギ

昨年8月、わが店の裏庭と資材置場を利用して「黒川水族館」をオープンした。たまたま店にファクシミリが入り、どこかに送ってみたいと思っていたら、店頭に置いた「黒川水族館」の自家製リーフレットが目に入った。そうだ、と思いついて鹿沼ケーブルテレビに送ってみた。するとさっそくケーブルテレビの江田氏から電話が入り、取材に行きたいとのこと。やった、と思ったが「水族館」と言えるほどの種類ではない。そこで毎日魚取りに行き、取材当日までに何とか20種類を確保した。アユは放流魚だろうから興味はないし、ウナギは僕は見たことがないので特にほしいとも思っていなかった。ただ、モツゴとジュズカケハゼを入手できなかったのが残念。

江田さんは半日かけてじっくり取材され、後日、DVDをわざわざ店に持ってきて下さった。テレビで放映されたこともあり、その後毎日のように、黒川水族館をいろいろな方が訪れた。

9月のある日、僕は大きめのカジカを加えようと川に出かけた。秋になるとカジカがどこで何百匹釣れた、などという情報が釣具店などで見られるが、釣りは魚に致命傷を与えることがあるので、僕は展示用に網で5〜6匹捕まえば良いのである。上流の川に入り、大きな石の下手に網を置き、石をひっくり返す。2〜3匹カジカを捕まえた後だった。同じように大きな石をひっくり返して網を上げると、黒いへびのようなものが入った。一瞬ぞくとしたがすぐにウナギだとわかった。僕はしばし呆然と川につっ立ったまま、この感動を味わっていた。そして傍らに生えていた

（次ページへ続く）

バйкаモでふたをして急いで家に帰り、60cmの水槽に入れた。水の冷たい上流にいたのだから暑さには弱いだろーと思い、ターボファンを設置し、風を当てた。しかし、そのためにできたすき間が良くなかった。

次の日の朝、資材置場に様子を見に行った。風も当てているし、元気なはずである。ところが、水槽の中には何もいない。僕はまたもしばし呆然とつっ立っていた。ウナギは長い首を延ばして天井のすき間から逃げて行ったのである。僕は我に返って網を持ち、そばに流れている川に入り、ガサガサを始めた。しかし後の祭りである。僕はガックリしたままこの日を過ごした。

午後3時頃、パラパラと雨が降り出し、夕方、本降りになった。僕は何とはなしに資材置場に行ってみた。入口の前には水溜りができている。するとどうだ、水溜りに黒いウナギが頭を突っ込んで死んでいる。いや、生きている。僕はすぐに水槽に戻した。ウナギは平然として、きょろきょろ頭を動かしている。昨日の夜中に逃げ出して、たぶん12時間以上、コンクリートの床の上にいたのである。ウナギが雨の日に陸の上を歩く、という話は聞いたことがある。しかし水から上がって12時間以上生きていられるとは。エサを与えずに1年以上も生きていた、という話もあるからウナギの生命力はすごいものである。土用丑の日を前に、ぜひウナギの横顔をご覧ください。

(黒川水族館・阿部良司)

黒川水族館 オープン!

8月1日(水)～31日(金)



鹿沼の自然・栃木の旅 月報第3号

2012年7月1日発行

北光・自然観察クラブ

鹿沼市上田町 1923

発行人 阿部 良司

年会費 1200 円

携帯メール希望の方はこちらへ→shizenclub.2006@docomo.ne.jp